

伊勢志摩サミットを控え 税関の使命を総動員で全うする

日本一の貨物取扱量を誇る名古屋港は伊勢湾奥の馬蹄形に広がる日本有数の広い港湾域の港でもある。その広域湾岸の交易にも目を光らせる海と空の関所・名古屋税関だが、今年には世界の首脳が集う伊勢志摩サミットも控える。石川紀税関長に話を聞いた。

——名古屋港の交易情勢は好調のようですが。

石川 税関には納税していただく経済官庁と、危険・不正に目を光らせる関所の役割があります。前者について、統計から見た貿易動向ですが、名古屋税関としては二〇一五年は割に良い年でした。輸出が約一八兆四〇〇〇億円、輸入が約一〇兆円で活況を呈したと言えるでしょう。

他方、考えなければいけない点

あります。

——物流の問題というのは？

石川 国際的インフラや海と空との競争関係を含む物流の変化などですね。例えば船でも技術革新による軽量化などでスピードアップが図られる一方、コスト削減も強く求められるため寄港地の選択や増減に影響しているとも考えられます。

また、世界的物流戦略の変化が見られる中、第三世代に当たるドローンを物流に活用すべく研究開発を進める企業もある。

税関は物流変化に敏感であり、常にその変化に対応してきた官庁です。

——もう一つの使命「関所」の

情勢はどうですか。

石川 麻薬・覚せい剤など不正薬物は一四年、全国で約六三〇kgを摘発し、三年連続で六〇〇kg超です。また、トン単位で押収している国・地域もあり、世界的に危惧される状況です。

近年では、メキシコやナイジェリアも覚せい剤の製造拠点だと言われています。

名古屋税関管内では一五年、押収した覚せい剤は約一二kg。前年より少し減りました。一方で危険ドラッグは七〇件以上を摘発しております。

最近特に目立つのは金の密輸入の増加です。一四年七月から一五年六月までに全国で一七七件摘発

し脱税額は約二億四〇〇〇万円です。前年同期比約八倍。これは消費税が八%に増税されたことが要因の一つと思われる。金を日本に持ち込む際には消費税八%が課税されますが、密輸して消費税の支払いを免れた金を貴金属商などに売れば消費税八%分がまるまる儲かるためです。

——今年伊勢志摩サミットが控えています。

石川 税関としては大統領などVIPが来られたらまず円滑な通関をすること。ホスト国としては

安心安全な日本という信頼が揺らぐことのないよう威信を懸けて

守っていく。爆発物やその原料となるものなどのテロ関連物資を水際で防ぐのが税関であり、その業務は既に始まっています。

職員はもちろんのこと、探知犬や大型X線検査装置なども総動員します。

パリでのテロ事件など世界ではテロが頻発しており、また、日本でも靖国神社での事件が発生するなど、伊勢志摩サミットでのテロ対策は税関の最重要課題です。



石川 紀 (いしかわ おさむ)
昭和35年10月24日生まれ。54歳。58年、大蔵省(現・財務省)入省。平成16年、内閣官房地方分権推進室参事官。18年、国税庁徴収部徴収課長。20年近畿財務局総務部長。23年、在ドイツ日本国大使館公使を経て25年7月から預金保険機構財務部長、27年7月から現職。

公安調査庁などの専門機関から

講師を招きテロ情勢や爆発物に係る知識向上のための特別な研修を実施するなど、関係取締機関などとの連携を図りつつ、テロ関連物資の水際での密輸阻止に、組織を挙げて全力で取り組んでいます。

何事かがあつては絶対いけないので緊張しますが、生涯で二度とない機会と思えば、気を引き締めて日夜業務に励んでおります。

——交易でもIT化、効率化が進んでいます。

石川 税関でも、例えば9.11テロ後はセキュリティ基準のしつかりしている業者はAEO事業者として認定し、税関手続きの簡素化が可能となります。また、この制度については、一七年の申告官署の自由化の実施に向け具体的な検討が進められています。

さらに、NACCS(輸出入・港湾関連情報処理システム)という通関業務などの一元的オンライン処理システムを利用していただくことでスピード化、効率化が図られております。

名古屋税関ではEPAの利用促

進のため、中小製造業者をはじめ多くの民間事業者に対して、EPA利用支援セミナーを開催し、積極的に活用していただくように務めています。

これらは、競争力の強化にもつながると思っております。

——管内の特徴というと？

石川 モノづくりの集積地であり、将来的にも期待が持てる地域です。自動車産業が盛んであることのほか、輸出額は少ないものの全国シェアの約七割を占める航空機産業も昨年、MRJが試験飛行を実施しており、今後完成機の輸出が、輸出産業としても期待できます。

また、管内にはゴールドルートの上に二つの国際空港があり、国際的なLCC(格安航空会社)を中心とした新規就航や増便などからいづれの空港においても訪日旅客数が増加しています。ただ入ってくる人が増えれば、輸入してはならないものを持ち込もうとする可能性が増えるので気を付けねばなりません。